

VI-7 新入生教育『スタディスキルズ』について(第3報)

高知工科大学社会システム工学科 教育講師 フェロー会員 伊藤綱男

1 はじめに 高知工科大学での新入生を対象とした『スタディスキルズ』(以下SSと称す)は、3年目を迎えた。この講義は、大学で必要な学習の基礎学力の育成及び就職に至るまでの人間力を高める教育の第一歩として位置づけられ、自ら主体的かつ積極的に課題に取り組む、9つのスキル(読む、書く、話す、聴く、議論する、考える、疑問をもつ、調べる、発表する)を修得する、大学生活の意義と目的を見つけこれからの学習と社会に出るための心構えを持つことを目標としている。

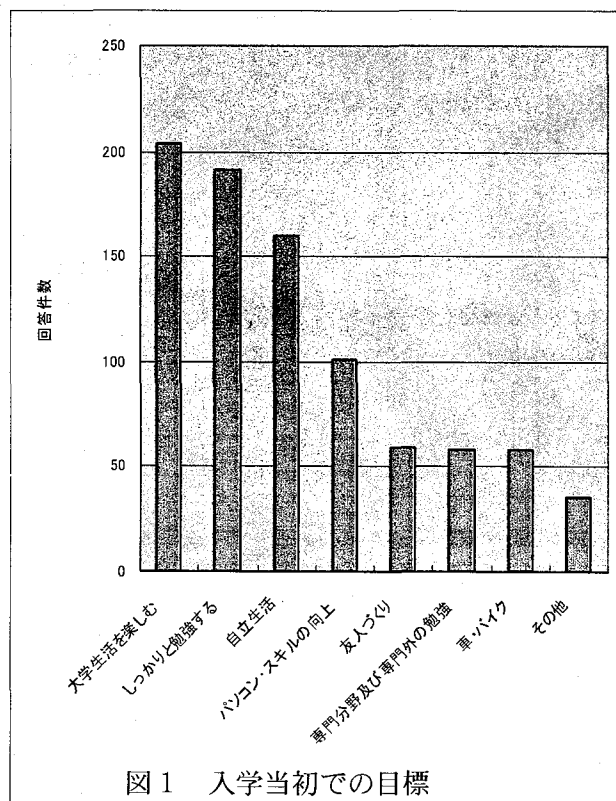
2 講義の方針 社会システム工学科の学生を対象に、基本的な素養を身につけることを目標とし、社会基盤施設について、受講生が自ら設定した課題に対して、自ら現地調査を行い、現況把握に基づき、問題点を整理し原因を検討するとともに、改善策を提案することを課題とした。これらの一連の調査検討、考察を取りまとめ、レポートを作成し発表することである。

これらを通じて「①社会基盤施設を知る ②基礎スキルを修得する ③人間力を高める」ことをねらいとした。また、①社会基盤施設の概要、社会の仕組みを学ぶ ②現場・現実・現物を見る力を学ぶ(三現主義) ③地域を見る眼・地域を分析する眼を養う ④問題解決力・創意工夫を行う ⑤コミュニケーション力などのスキルを身につけるものである。

3 講義の進め方 いずれも12~13名の小人数(8クラス)を対象とした。自ら設定したテーマの事例としては、①まちづくり：土佐山田のまちづくり、土佐山田町の商店街の活性化、高知駅周辺の再開発について ②道路・交通：道路交通と安全性確保、国道195号の問題点と改善点、大学周辺道路の安全性 ③河川：物部川の問題点と改善点、物部川の水質と生物について、河川構造物について ④環境：物部川の河川環境について、ごみ問題などである。チームを組み、現地調査、ヒアリングなどが行われた。最終レポートは2,000字を目標とした。最終回での発表は、各自意欲的にプレゼンテーションに取り組んだ。

4 新入生入学当初での目標 入学当初に大学での目標を設定することにより、大学生活をより意欲的に取り組むことを期待してアンケートを実施した。各自10個の目標を書き出すこととした。回答数865個(対象者96人)のうち大学生活を楽しむが23%、しっかりと勉強するが22%、自立生活が18%、友人づくりが7%となっており、バランスの取れた新入大学生像となっている。

5 スキル修得度について スキル修得度についてのアンケートでは、「読む、書く、話す、聴く、疑問を持つ、調査する、考える、主張する、社会に関心を持つ」のSSが要求する9区分について質問を行った。9区分それぞれでは、その内訳項目が示されている。たとえば「読む」区分での内訳項目は、図書館の利用方法、本の検索、読んだ結果をまとめる、本の読み方、どんな本を読めばいいか、本を読んで疑問を解決する、などである。9区分全部で43項目である。



それぞれの項目について、SS 講義によりどのような効果があったかを、A：かなり効果があった B：ある程度効果があった C：あまり効果がなかったの3段階の評価をした。

スキル修得度評価結果を図2、図3に示す。

評価点は、A、B、Cの3段階評価を点数に換算しAには2点、Bには1点、Cには0点を与えた。回答者実数 86 名である。スキル区分別では、「調査する、疑問を持つ、考える、書く」が効果があったとの評価、一方「読む、話す、主張する、社会性」については効果が薄かったとの結果である。評価点が高い順に項目を示すと、「レポート等の書き方」、「人の話に耳を傾ける」、「友達を作る」、「興味を持つ」、「考えを整理する手法」が上位5項目となった。評価点が低い順に項目を示すと、「早くたくさん読む」「難しい本を読むことの挑戦」「聴く人に理解され、興味をもたれるような話し方」「本を読んで疑問点を解決する」が下位5項目となった。

6 受講生からの感想

- ・この講義における印象や評価は、授業を受けるというのが主ではなく、自分で行動するのが主であるという事に特化していたのでそういうことに関して強い印象があり良かったと思う。
- ・人の意見を聴くことの大切さ、協調性の重要性を数多く学びました。それと同時に自分の意志をしっかり持ち、それを相手に理解してもらうことの難しさ、もどかしさを痛感しました。今回のことを必ず次に活かせるようにしたいです。
- ・何でも目標を持ってやること、コミュニケーションの大事さなど、将来を見据え何をやるべきかを学んだ。ここで学んだことを今後に生かしたい。

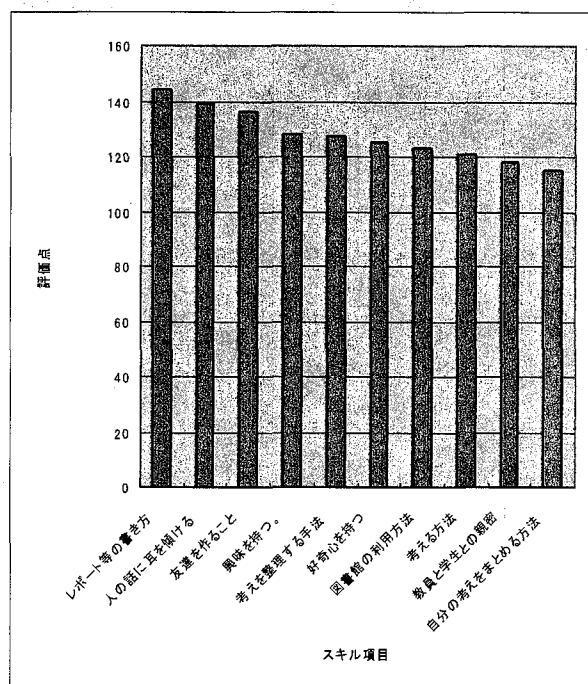


図2 スキル修得度の高順位

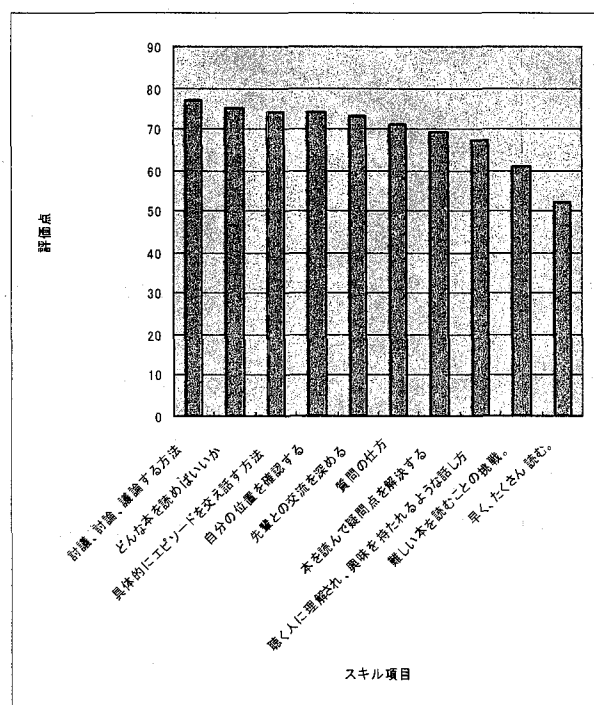


図3 スキル修得度の低順位

7 今後の課題 学生が自ら学ぶ姿勢を、教育講師がいかに支援していくか、より効果的に支援するための工夫改善が求められる。教育講師のもつ、社会人そして技術者としての経歴・経験をいかに学生諸君に伝えるか、また学生個々へのカウンセラー、アドバイザーとしての資質・技量を向上させる必要がある。基礎スキル向上策のほか、人間力・キャリア形成などの社会適応力（ソーシャルスキル）を増進させるための手法を含め、更に進化したSSを構築していくかが課題となっている。

参考文献 2005 年度高知工科大学スタディスキルズ紀要 2006. 2. 26 (高知工科大学教育講師室)